

平成23年9月1日発行

会員各位

協会だよりー225(9月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

<トピックス>

- 第24回JSCRA会(泉カントリー倶楽部)9月9日(金)開催。
- 第210回月例会(見学会)
 - 日時:平成23年10月18日(火)13時~
 - 見学先:浮島太陽光発電所・川崎エコ暮らし未来館(川崎市川崎区浮島町)
- 第211回月例会(一泊研修会)
 - 日時:平成23年11月18日(金)~19日(土)
 - 見学先:JX金属三日市リサイクル株式会社(富山県黒部市)



8月29日、台東区蔵前二丁目の蔵前橋たもとより外観ほぼ完成のスカイツリーを望む。LIONビルの手前は隅田川に沿っている首都高6号向島線です。(撮影:小林尚道)



3月・源森橋と枕橋の間で、隅田川寄りの墨田区役所近く、北十間川沿いより撮影する。高さはほぼ完成。(写真提供:松田高志氏)

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① **協会だよりー224(8月号)** をメール&郵便で送信(8/1)

- ② 第210回月例会(見学会)幹事会
 日時:平成23年8月5日(金)16:00~17:00
 場所:触媒資源化協会事務局(ニュー新橋ビル601-A)
 議題:見学会の場所の決定
 幹事:川研ファインケミカル(株)、中外鉱業(株)、ヘレウス(株)
 日本無機化学工業(株)(月例担当運営委員)
- ③ 第三回運営委員会(臨時)
 日時:8月19日(金)15時30分~17時00分
 場所:堺化学工業(株)会議室
 議題:第210回月例会(見学会)
 第211回月例会(一泊研修会)中間報告
 出席:運営委員・第210月例幹事会社(8名出席)。

【予定事項】

- ① 第24回JSCRA会9月9日(金)開催。
 場所:泉カントリー倶楽部
 出席:13名(現役9名、OB 4名)
- ② 第四回運営委員会
 日時:9月16日(金)15時30分~17時00分
 場所:堺化学工業(株)会議室
 議題:第210回月例会(見学会)
 第211回月例会(一泊研修会)
 出席:運営委員・第210月例幹事会社、第210月例幹事会社。

2. 寄贈文献紹介

- (ア) 工業レアメタル127 Annual Review 2011 アルム出版社(8/2)
 p144~145 触媒資源化 の記事
 10年度は相場高と回収量回復で過去最高の2,629億円
 貴金属:触媒分野は469億円、3年ぶり6割増。銀はデジカメ普及で写真感光剤回収が激減
 レアメタル:ガリウムなど回収量、評価額とも回復。
- (イ) 触媒工業協会45周年記念誌 平成23年6月9日発行(8/2)
- (ウ) NEDO 実用化ドキュメント~研究開発プロジェクトのその後を追う~
 平成23年5月発行(8/8)
- (エ) クリーン・ジャパン・ニュースレター2011・8No.32(8/9)
- (オ) 触媒工業協会報第105号 平成23年7月(8/11)
【平成23年度技術賞】
- 「触媒式脱臭活性炭の開発」
 株式会社キャタラー 第3研究開発部
 清水 康弘 殿、榊原 吉延 殿
 - 「新規チタン系ポリエステル製造用重縮合触媒の開発」
 堺化学工業株式会社 堺商品開発研究所 触媒開発チーム
 田畑 啓一 殿、家門 彰弘 殿

一. 協会よりのお知らせ
 『実施済事項』
 『予定事項』
 ニ. 寄贈文献紹介
 三. 事務局より(9月度の予定)
 四. 『雑学』発祥の地十二(官学発祥の地)
 ●東京工業大学(東京職工学校、東京工業学校、東京高等工業学校と変遷)
 東京高等工業学校と変遷

3. 事務局より (9月度の予定)

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	8/29	8/30	8/31	1	2	3
	○	×	○	×	○	×
2週	5	6	7	8	9	10
	×	○	×	×	第24回JSCRA会	×
3週	12	13	14	15	16	17
	×	×	○	×	第4回運営委	×
4週	19	20	21	22	23	24
	敬老の日	○	×	×	○	×
5週	26	27	28	29	30	10/1
	×	○	幹部交流会	×	○	×

事務局延べ出勤予定：10日(○；終日、△；半日、×は休日)。

- 幹部交流会は年一度、触媒工業協会と当協会の会長、副会長、事務局長と意見交換の場。

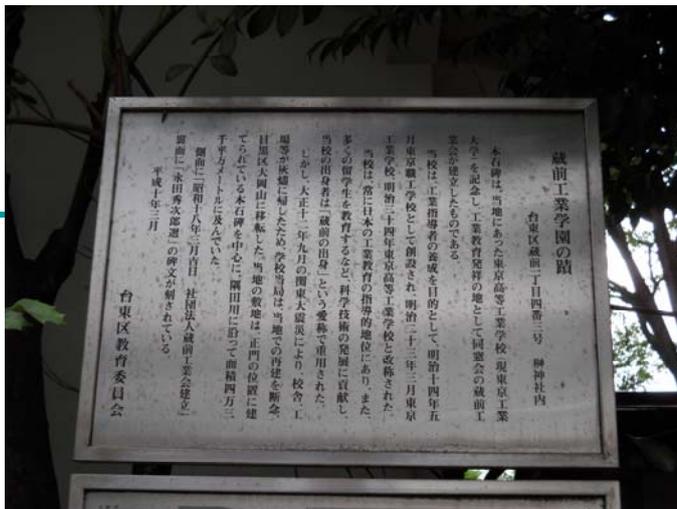
5. 【雑学】 発祥の地十三 (官学発祥の地)

- 東京工業大学 (東京職工学校)

東京職工学校⇒東京工業学校⇒東京高等工業学校⇒東京工業大学へ・・・出世魚のごとく東工大はこの蔵前の地で設立されたため、卒業生は蔵前出身者と俗称されています。発祥の地は現在の東京都台東区蔵前1丁目です。1丁目4番3号の榊神社境内に「蔵前工業学園之蹟」石碑と碑文の説明板が設置されています。この石碑は昭和18年に蔵前工業会(同窓会)が建てたようなので既に70年近く経っています。戦前の文章なのでカタカナかつ漢文調であるため、代わりに平成10年に台東区教育委員会が設置した説明文を乗せます。



榊神社境内にある石碑



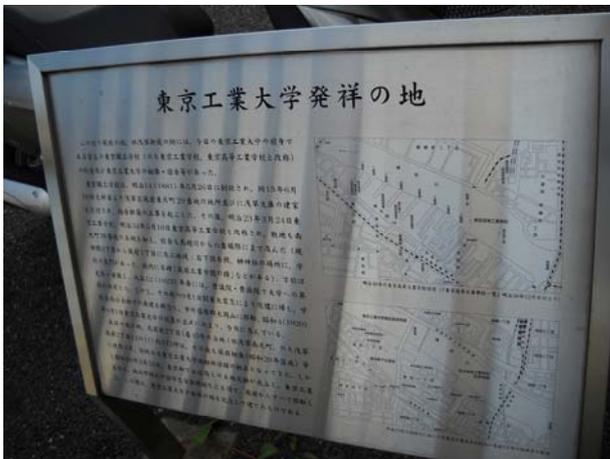
本石碑は、当地にあった東京高等工業学校（現東京工業大学）を記念し、工業教育発祥の地として同窓会の蔵前工業会が建立したものである。

当校は、工業指導者の養成を目的として、明治十四年五月東京職工学校として設立され、明治二十三年東京工業学校、明治三十四年東京高等工業学校と改称された。

当校は、常に日本の工業教育の指導的地位にあり、また、多くの留学生を教育するなど、科学技術の発展に貢献し、東京の出身者は「蔵前の出身」という愛称で重用された。

しかし、大正十二年九月の関東大震災により、校舎、工場等が灰燼に帰したため、学校当局は、当地での再建を断念、目黒区大岡山に移転した。当地の敷地は、正門の位置に建てられている本石碑を中心に、隅田川に沿って面積四万三千平方メートルに及んでいた。

東京工業大学発祥の地と書かれたパネルは蔵前2丁目の東京都下水道局北部第一下水道事務所駐車場入り口（墨田川側）に設置されている。この地は東工大の艇庫として使用された場所である。パネルの要点のみ記載する。



この辺り蔵前の地、旧浅草御蔵の跡には、今日の東京工業大学の前身である官立の東京職工学校（のち東京工業学校、東京高等工業学校と改称）の校舎及び東京工業大学の艇庫・宿舎等があった。

東京職工学校は、明治14（1881）年5月26日に創設され、同15年6月10日文部省より浅草区蔵前東片町29番地の地所並びに浅草文庫の建屋を交付され、校舎新築

の工事を起こした。その後、明治23年3月24日東京工業学校、明治34年5月10日東京高等工業学校と改称され、敷地も南元町38番地の土地を加え、校舎も鳥越川から六番堀まで及んだ（現柳橋2丁目から蔵前1丁目に及ぶ地域、榊神社の場所に、学校の表門があった）。学校は充実・発展し大正12（1929）年春には、大学への昇格が決定した。しかしその秋の9月1日関東大震災により灰燼に帰し、学校当局は当地での再建を断念し、市外荏原郡大岡山に移転、昭和4（1929）年4月1日東京工業大学の設置が正式に決まり、今日に及んでいる。

- 長い歴史を有する学校発祥の地のご紹介は、この東工大を以って終了いたします。

【余 談】

社会科学系大学のトップ校、一ツ橋大学が商法講習所⇒東京商業学校⇒東京高等商業学校⇒東京商科大学⇒東京産業大学⇒一ツ橋大学となった経緯に一部似たところがあります。

関東大震災により、東京商科大学の一ツ橋の校舎が灰燼に帰し国立へ移転しました。

東京工業大学も大岡山に移転し、現在、理工学系の総合大学であるが、一ツ橋のように発祥地の名称を付けるなら東工大は蔵前大学になっていたかもしれません。

【文責・専務理事】